

平成 26 年度ユネスコスクール年次報告書

報告期間：2014年4月～2015年3月

※今年度の年次報告書は担当者の名前、メールアドレス、添付資料を除き、HP等で公表します。また、ユネスコスクールの質の確保の観点から、報告書の内容が一定の基準に満たないもの、報告書が2年連続して未提出の場合には、ユネスコスクールの認定取消を勧告させていただくことがありますので、あらかじめご了承ください。

1. 学校概要

学校名 石巻市立鮎川小学校

種別  保育園・幼稚園  小学校  小中一貫教育  
 中学校  高等学校  中高一貫教育  
 教員養成  技術/職業教育  
 特別支援学校  その他 ( )

住所 〒981-1105  
宮城県石巻市鮎川浜清崎山 1-1

E-mail : elsayukcl@city.ishinomaki.lg.jp

Website : <http://www.mediaship.ne.jp/~elsayuk/index/index.htm>

児童生徒数：男子 20 名 女子 12 名 合計 32 名  
 児童・生徒の年齢 6 歳～ 12 歳

2. 担当者 ※公表しません

3. 実施活動（複数選択可）

- 地球規模の問題に対する国連システムの理解
- 国際理解
- 世界遺産
- 平和・人権
- 環境
- 気候変動
- 生物多様性
- エネルギー
- 防災
- 食育
- 伝統文化
- そのほか ( )

## 4. 活動内容

(1) 1年間の主な活動内容について記載願います。

本校は牡鹿半島南端に位置し、鮎川浜、新山浜、十八成浜、網地島など、豊かな自然に恵まれた風光明媚な土地です。古くから捕鯨の町として栄えてきましたが、商業捕鯨禁止にともなう関連産業の衰退や基幹産業である水産業の不振と共に人口が減少していました。

2011年3月11日の東日本大震災により、本校学区の約75%の住宅が流失してしまうという、甚大な被害を受けました。本校の在籍児童も、約半数が自宅家屋が流失したり全壊したりしました。校舎は津波による直接の被害は免れたものの、仮設住宅58棟が本校校庭全面に建設され、児童の体力向上の妨げとなっているばかりでなく、ストレスの解消や心の復興を阻む要因となっています。また、震災によって厳しい生活を余儀なくされている家庭が多いのです。

このような実態を受け、校庭全面を埋め尽くす仮設住宅の住民の方々との協働教育を目指し、平成23年度より「ふれあい・支え合いプロジェクト」を開始し、それを基盤に平成24年度「石巻市コラボスクール推進事業」の指定を受け、地域の方々を講師として牡鹿復興太鼓に取り組んだり、地元の伝統芸能の七福神舞の体験学習に取り組んだり、地域との協働教育の一層の推進を図ってきました。

このような活動の持続発展を目指し、平成25年度より学校教育目標の重点にESD活動を位置づけ、伝統文化、国際理解、防災、等のESD活動に取り組んでいます。本年10月、ユネスコスクールへの加盟が認められ、第2回宮城教育大学・東北地区ユネスコスクール実践大賞を受賞しました。

### 1) ねらい

- ・様々な人やものとかかわり合う豊かな体験を通して、課題を追求する態度を養うとともに、つながりを実感する。
- ・世界の様々な国の事情を知り、自然災害、貧困、人権、平和、開発、環境等の現代社会の課題を自らの問題として捉え、それらを解決する活動に持続的に取り組もうとする意識を高める。

### 2) 実践内容

先述のように、震災後本校校庭を埋め尽くすように仮設住宅が建設され、現在も住民の方々と児童が常時一緒に生活しているような状況である。そこで仮設住宅の住民の方々との協働教育を推進したり、地域の伝統芸能を復活させたりと、まちの復興・心の復興に向けた特色ある取組を行ってきた。その取組をより継続的に深く実践するためにユネスコスクールに加盟し、持続可能な開発のための教育活動に積極的に取り組んでいる。

#### 「牡鹿銀鱗太鼓」の活動

復興の願いを込め、子供たち自身の手で復活させた取組である。学習発表会等の学校行事や地区のお祭りなどで演奏を披露するなど、地域を元気にする取組を行い、今では「地域の宝」と呼ばれるように成長してきた。

この活動の持続発展活動として、平成26年7月に、先日台湾・新竹県の玉峰

国民小学校との交流活動を行った。玉峰小学校の皆さんには「タイヤル族」伝統の歌と踊りを披露していただき、本校児童は「牡鹿銀輪太鼓」を披露した。両校の児童が日々取り組んでいる伝統芸能を介しての交流により、それぞれの文化の違いを感じながら、迫力のある互いの演奏・演技に対する大きな感動を共有することができた。

### 3) 成果と課題

活動後の児童の感想を読むと、子どもたちは実に多くのことを感じ、そして今後につながる意識が涵養されたことが分かる。

このように、地域に根ざした伝統文化活動の取組を通して、子供たちは自分のふるさとに誇りを持ち、震災からの復興に積極的に関わる姿勢が育ってきている。さらに、他地域、そして他の国の方々との交流活動にも広がるなど、活動が持続的に発展してきた。

課題は、復興の歩みが遅く、地域の未来の姿がまだまだ描けないということである。またそれに伴う児童数の減少も、地域全体の課題と言える。

次年度、本校は宮城県教育委員会の研究指定を受け、防災教育に重点的に取り組んでいく。その取組のなかでESD活動の視点を基幹に置き、持続発展できる活動に取り組んでいく予定である。

(2) 活動時間について(下記から選択して下さい。)

- 通常の授業時間を使用(総合的な学習の時間を含む)
- 時間外活動の時間を使用
- ユネスコクラブの活動として実施
- その他( )